

SC-S30650/SC-S50650/SC-S70650

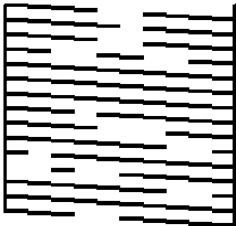
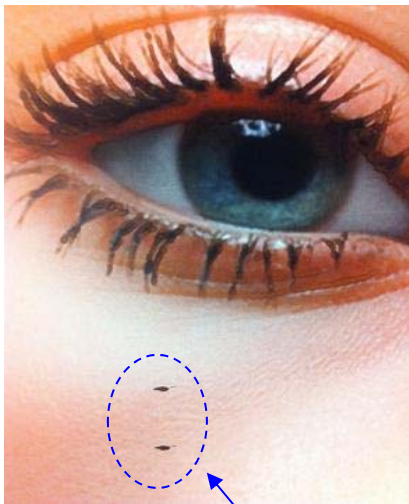
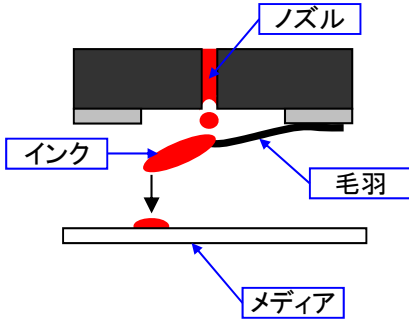
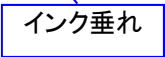
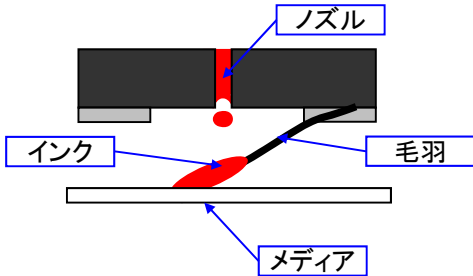
お客様によるメンテナンス作業

エプソン販売 株式会社

SCSUEHB_C
2015/1/9

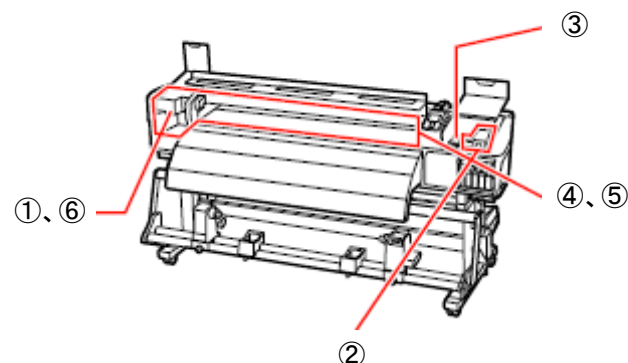
●定期清掃による効果（印字不具合の種類と主な原因）

インクを吐出するヘッドノズル面へのホコリや毛羽、紙粉の付着により、印刷不具合が発生します。定期清掃を実施していただくことで、下記表に示す不具合の改善はもとより、防止効果があります。

不具合	印字状態	主な原因
印字中ドット抜け 朝一ドット抜け クリーニング未回復		・ワイパ、キャップへのインク固着 ・フラッシング用吸収材へのゴミ毛羽付着、インク固着 ・機内のゴミ毛羽が浮遊し、ノズルに付着
メディア上インク垂れ 	円形のインク垂れ 	・ノズル付近についたゴミ毛羽に吐出したインクが付着、滴り落ちる。 
	線状のインク垂れ 	・ノズル面についたインクを含んだゴミ毛羽が、メディアに直接触れる。 

●定期清掃の頻度

インクを吐出するヘッドのノズル面は、ホコリや毛羽、紙粉の付着により、印字品質を損ねる可能性があります。
ご使用の環境により必要頻度は異なりますが、常に安定した状態でご使用いただくためには、下記のとおりお勧めします。



箇所	頻度(ご使用環境により)
①プリントヘッド周辺	毎日
②ワイパー、キャップ、ワイパークリーナー	毎日 (ワイパー全体は1週間に1回)
③フラッシング用吸収材	パネルからのクリーニング操作でも回復しない場合
④プラテンヒーター	週一～月一
⑤メディア押さえ板	週一～月一
⑥機内清掃スペース	週一～月一

●清掃タイミング

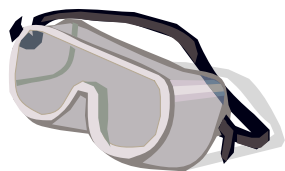
定期清掃: 印刷業務終了時に実施してください。
印字不良発生時: クリーニングでも印字不良が回復しない場合に実施してください。

メンテナンス実施に関してはまず、ユーザーズガイドをよくお読みになり、重要事項、注意事項をよくご理解のうえ、行ってください。

●準備するもの

清掃や交換を始める前に、以下のものを準備してください。

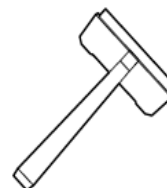
保護メガネ(市販品)



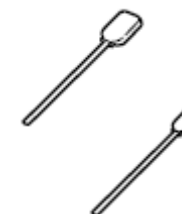
手袋(キット)



クリーニングワイパー(キット)



クリーニング棒(キット)



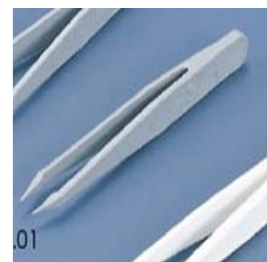
インククリーナー(消耗品)



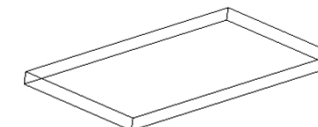
不織布
(クリーンルーム用ワイパーキット)



ピンセット(キット)



金属トレイ(製品付属)



使用済みのクリーニング棒や取り外したワイパーやワイパークリーナー、フラッシング用吸収材などを置くのに使います。

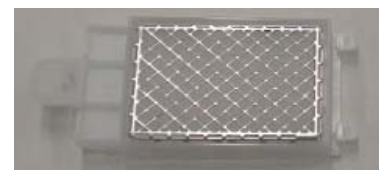
ワイパークリーナー(キット)



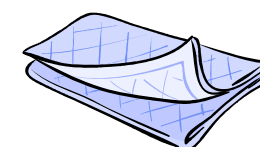
ワイパー(キット)



フラッシング用吸収材(キット)



柔らかい布、ブラシ(市販品)



作業を開始する前に必ずお読みください。

＜作業者の健康に関わる注意事項です。必ずお読みください。＞

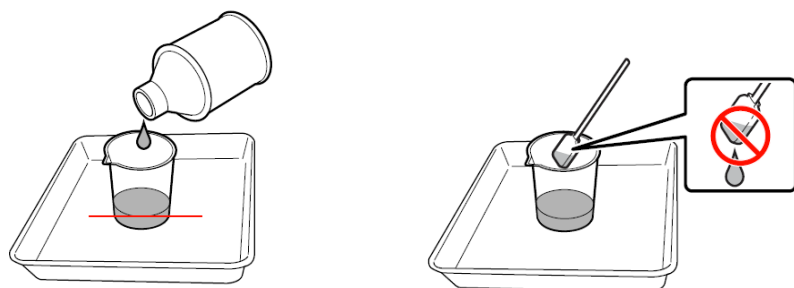
- ・インククリーナーは、子どもの手の届かない場所に保管してください。
- ・インククリーナーを取り扱うときは、保護メガネ、手袋を着用してください。皮膚に付いたり、目や口に入ったときは、すぐに以下の処置をしてください。
- ・皮膚に付いたときは、すぐに多量の石けん水で洗い流してください。皮膚に刺激を感じたり変化があるときは、医師の診断を受けてください。
- ・目に入ったときは、すぐに水で洗い流してください。そのまま放置すると目の充血や軽い炎症をおこすおそれがあります。異常があるときは、医師の診断を受けてください。
- ・飲み込んだときは、吐き出さずに、すぐに医師の診断を受けてください。
- ・インククリーナーを取り扱った後は、手洗いとうがいを十分に行ってください。

＜製品の機能保証等に関わる注意事項です。必ずお読みください。＞

- ・本機からメディアを取り外してから作業を始めてください。
- ・**プリントヘッドの乾燥を防ぐために、10分以内で作業を終了してください。10分を経過するとブザーが鳴ります。**
- ・清掃の対象箇所以外の部品やベルト類、基板には絶対に触らないでください。本機の故障や印刷品質低下の原因となります。
- ・当社純正消耗品のインククリーナーをご使用ください。純正品以外をご使用になられた場合の品質は保証いたしかねます。
- ・クリーニング棒は、付属または消耗品のもの以外は使わないでください。毛羽ゴミの出るものを使うとプリントヘッドを破損します。
- ・クリーニング棒は、常に新品を使用してください。一度使用したものを再利用すると、かえって汚れが付着する原因となります。
- ・クリーニング棒の先は手で触らないでください。皮脂が付着し、プリントヘッドが破損することがあります。
- ・ノズル面やキャップ、ワイパーなどに水やアルコールを付着させないでください。インクと水、アルコールが混ざると固まります。
- ・作業の前に金属製のものに触れて、作業者の静電気を逃がしてください。
- ・使用済みのクリーニング棒などを本機の上に直接置くとインクの性質上、除去が困難な汚れが付くことがあります。本製品付属の金属トレイをご使用ください。
- ・一度清掃に使ったインククリーナーを使わないでください。汚れたインククリーナーを使うと、かえって汚れが付着します。
- ・インククリーナーは、産業廃棄物です。廃インクと同じ方法で廃棄してください。
- ・インククリーナーは、直射日光を避けて常温で保管してください。
- ・インククリーナーは、プリントヘッド周辺、キャップ周辺、フラッシング用吸収材などの清掃に限り使用してください。部品が傷つくため、他の部品にはインククリーナーを使わないでください。

●インククリーナーの使い方

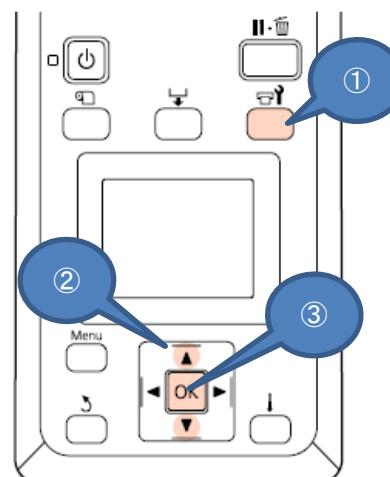
- ・インククリーナーに付属の容器を金属トレイに載せてインククリーナーを約10ml 注ぎます。
- ・クリーニング棒にインククリーナーを染み込ませます。
このとき、クリーニング棒からインククリーナーが垂れないように注意してください。
- ・不織布クリーンルーム用ワイパーにインククリーナーを染み込ませるときも、容器に注いだインククリーナーを使用してください。
- ・インククリーナー及び、不織布クリーンルーム用ワイパーは再利用しないでください。



●プリントヘッドの移動

プリントヘッドの移動は、必ず以下の手順で行ってください。プリントヘッドを手で移動すると故障の原因となります。

- ・電源が入っていることを確認し、右図の【①】ボタンを押します。
メンテナンスメニューが表示されます。
- ・【②の上下】ボタンを押して[ヘッドメンテナンス]を選択し、【③の OK】ボタンを押します。
- ・プリントヘッドが清掃位置まで移動します。



1 プリントヘッド周辺部

A: ヘッドガードの清掃

ゴミ毛羽付着を軽減させるために、ヘッドガードの清掃を行います。
固着したインクやゴミ毛羽を完全に除去してください。



ヘッドガード部のインク固着がクリーニング棒では除去しきれない場合、
インククリーナーを浸した不織布で拭き取ってください。
その際、ヘッド表面に触れないように十分注意してください。
ノズル詰まりの原因になってしまいます。

清掃頻度: 毎日

※ヘッドとの隙間に入ったインクやゴミ毛羽は下図のようにクリーニング棒を縦にして清掃します。



クリーニング棒は
通常、平らに持って
使用

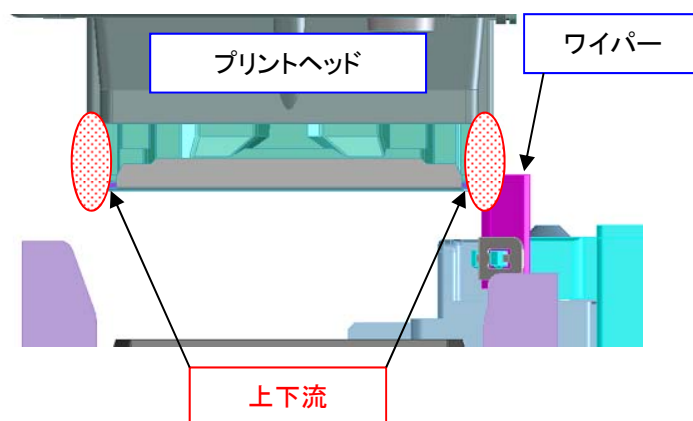
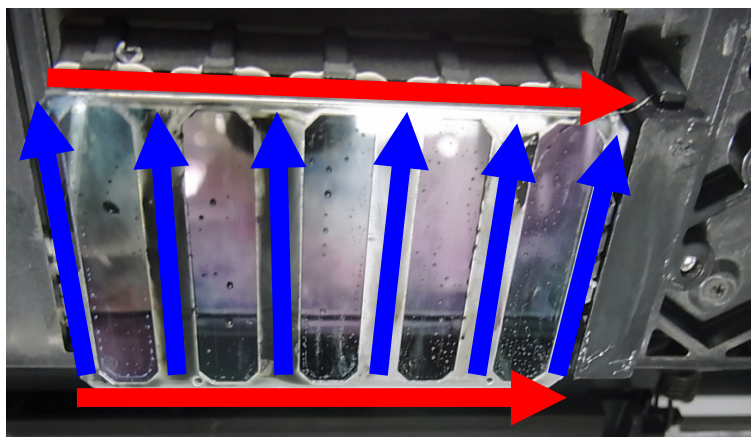


すき間部分はクリーニング棒を
縦に持って使用

B: ノズル面の清掃

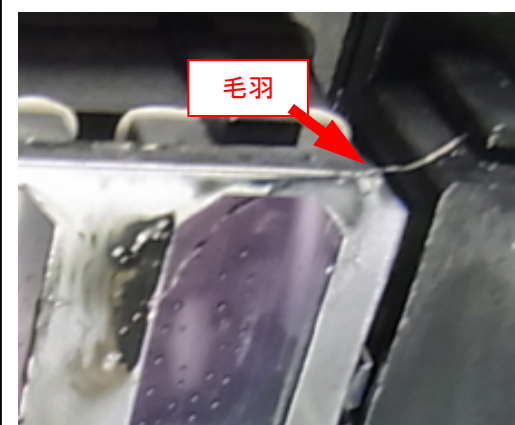
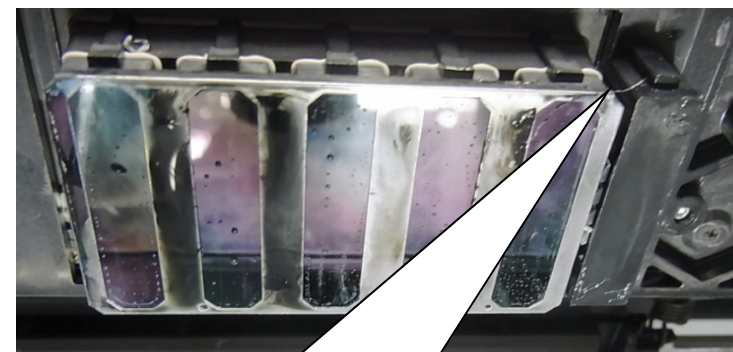
まず下図の矢印部分に固着したインクを清掃します。
クリーニング棒にインククリーナーを染み込ませ、矢印部のインクを溶かすようにして清掃してください。

- ・矢印以外の部分には触れないように注意してください。
- ・プリントヘッド上下流(赤い矢印部分)はワイピング時にワイパが接触し、インクが付着しやすい部分です。念入りに清掃してください。

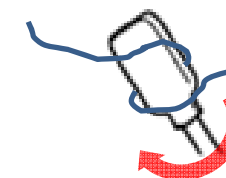


清掃頻度: 毎日

※ゴミ毛羽は、クリーニング棒の先端で絡ませるように除去してください。



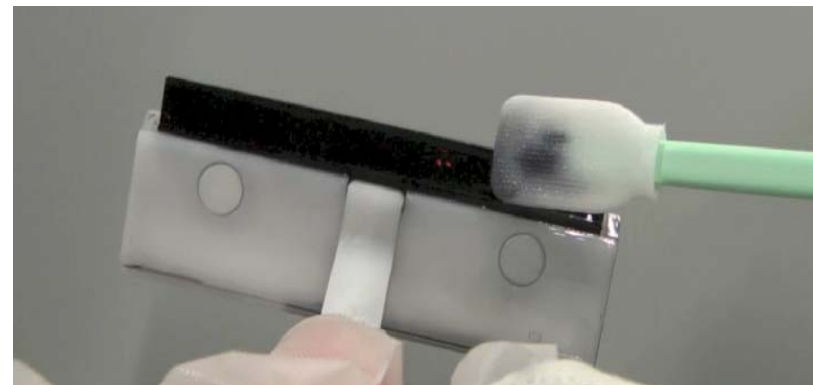
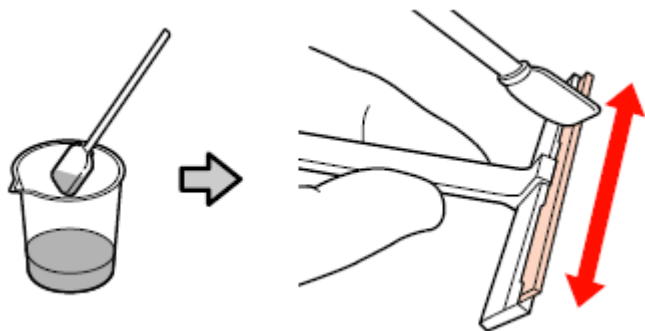
クリーニング棒を回転させ
毛羽を絡め取る



c: クリーニングワイパーによるノズル面の清掃

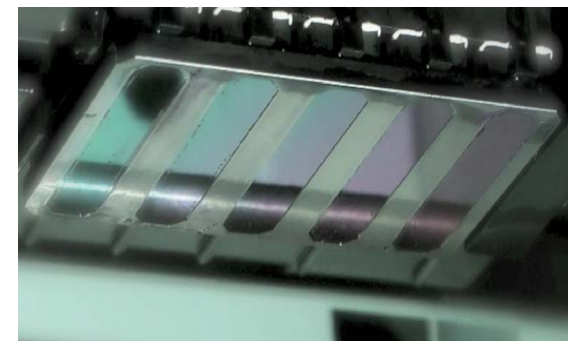
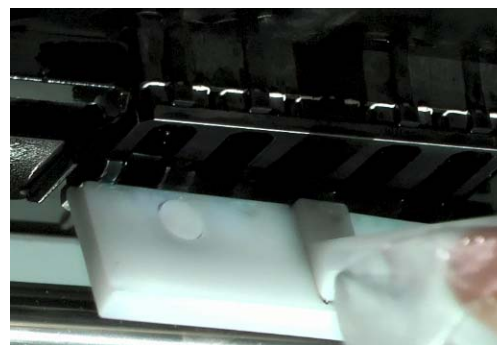
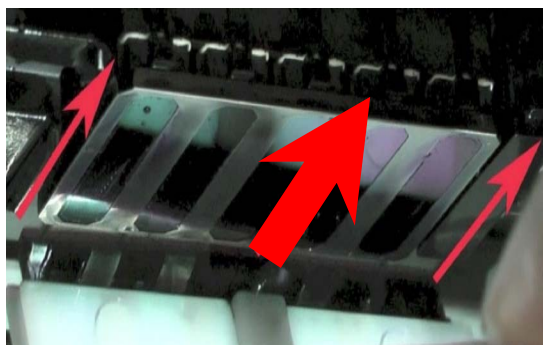
清掃頻度: 毎日

- ・クリーニング棒(大)にクリーニング液を付け、クリーニングワイパーのゴム部を清掃し、濡らした状態にします。



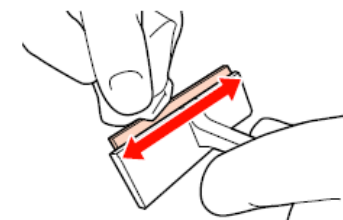
- ・ワイパーを奥側から手前に“矢印方向に1度だけ”移動させてください。

※クリーニングワイパーを往復させると、プリントヘッドが破損してしまうことがあります。



クリーニングワイパーで清掃した後は、都度ワイパーゴム部を不織布等で清掃してください。
ワイパーゴムが拭き取ったインクがヘッド表面に再付着し、ノズル詰まりを起こす可能性があります。

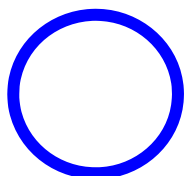
- ・使用済みのクリーニングワイパーは、直射日光の当たらない場所に保管してください。



●清掃前後の状態



清掃前：
固着インク、ゴミ毛羽付着あり

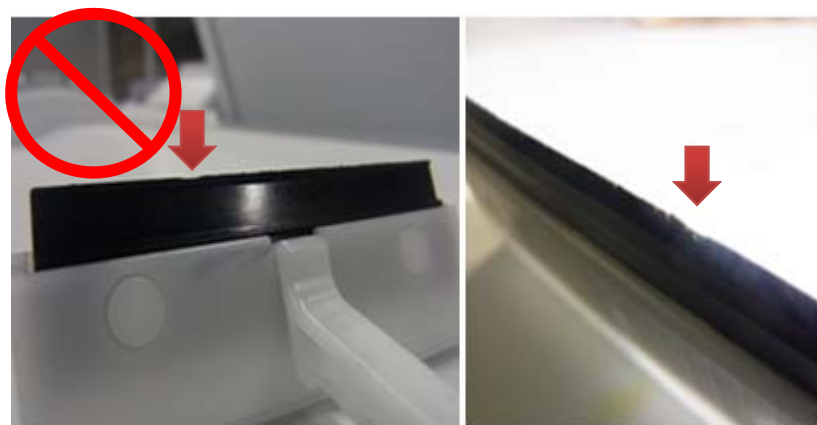


清掃後：
固着インク、ゴミ毛羽の付着なし



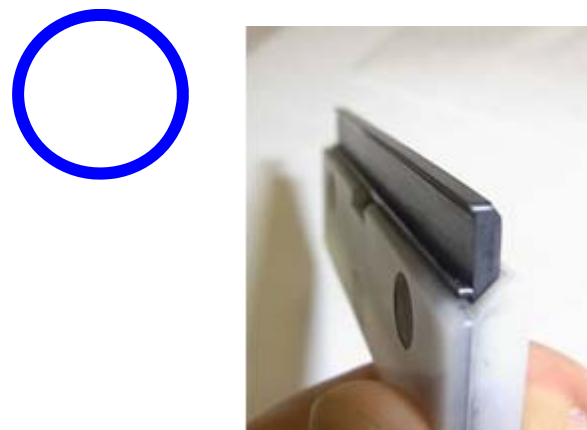
※以下のような状態となった場合、クリーニングワイパーの寿命です。
新品のクリーニングワイパーに交換してください。

・ふきとりゴム部分が劣化している(ちぎれがある、まっすぐでない、カスがついている)



寿命となったクリーニングワイパーを清掃に使用し続けると、
ヘッドを破損する可能性があります。

・ふきとりゴム部分に固着したインクがとれない

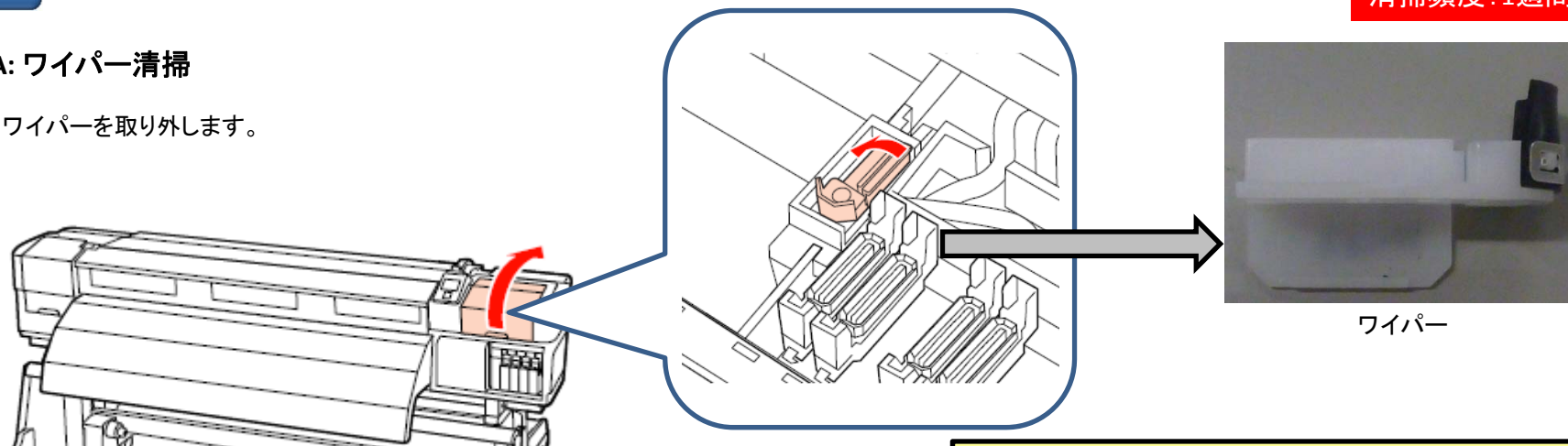


2 ワイパー、キャップ、ワイパークリーナー

清掃頻度: 1週間/回

A: ワイパー清掃

- ・ワイパーを取り外します。

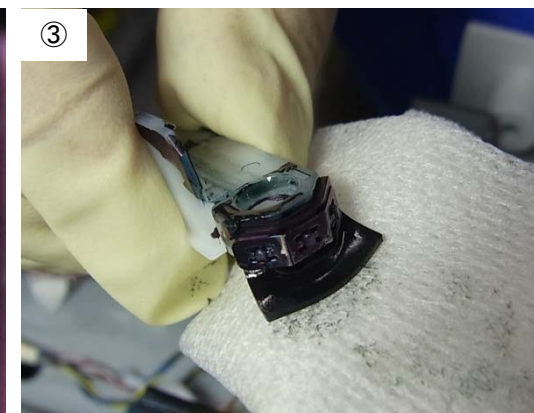
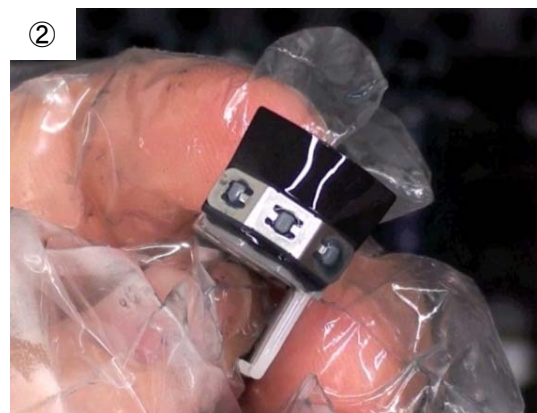


ワイパー

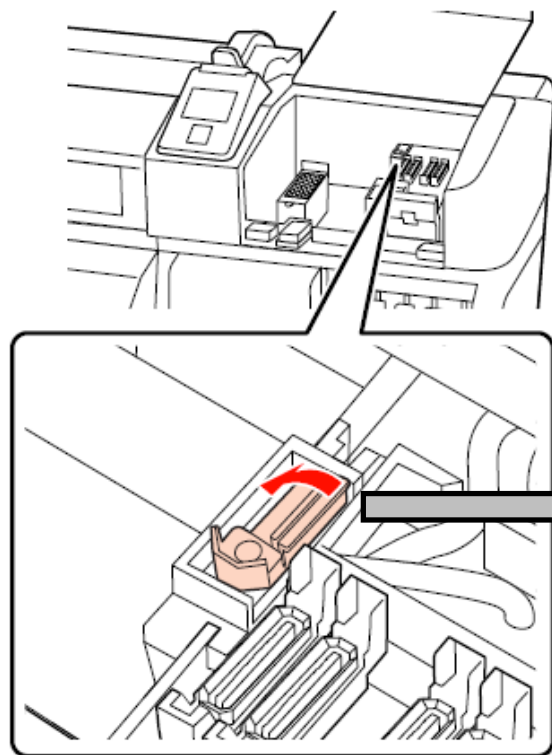


ワイパーは必ず取外して清掃をしてください。
取外せずに清掃するとワイパー取付部と固着してしまい、パーツを破損させる可能性があります。

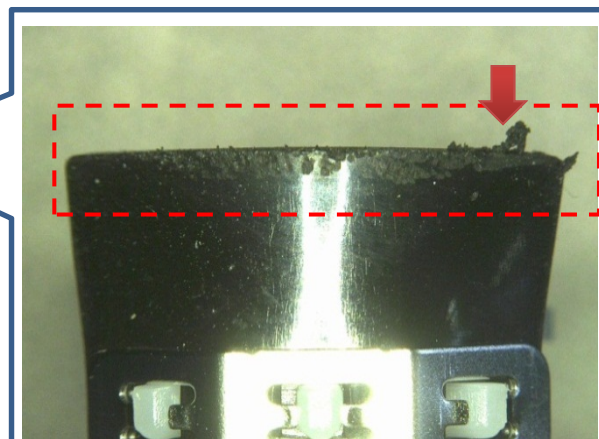
- ・外したワイパーを持ち、インククリーナーを浸したクリーニング棒で固着したインク、ゴミ毛羽を丁寧に取り除いてください。(図①②)
- ・固着したインクやゴミ毛羽の付着状況によっては、図③のようにインククリーナーを浸した不織布に擦るようにして清掃する方法が効果的です。



・固着インクが取れない場合や、清掃をしてもクリーニング後にノズル抜けが回復しない場合は、拭き取りゴム先端部が磨耗している可能性があります。新品に交換してください。



ワイパー

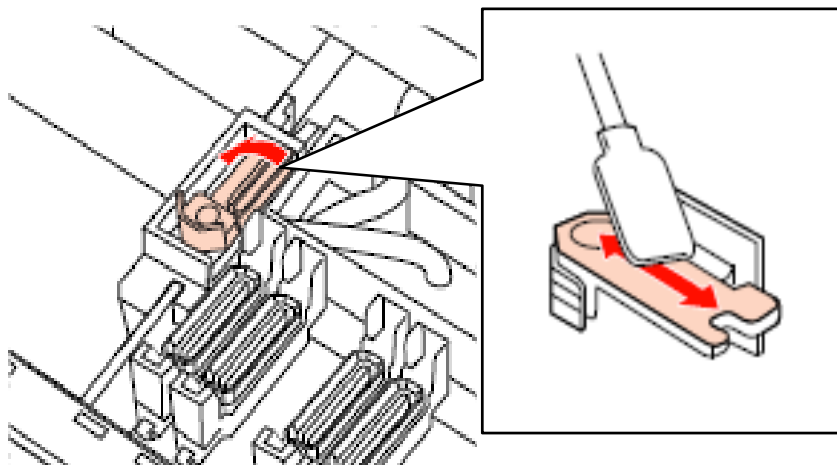


先端部の磨耗

B: ワイパー取付部の清掃

ワイパー取付部にインクが固着すると、ワイパーが正しくセットできない状態となり、クリーニング不良やワイパフックの掛かり不良による破損が発生します。クリーニング棒にインククリーナーを染みこませ、ワイパーとワイパー取付部に固着したインクを清掃してください。

<ワイパー(底部ワイパフック)清掃>

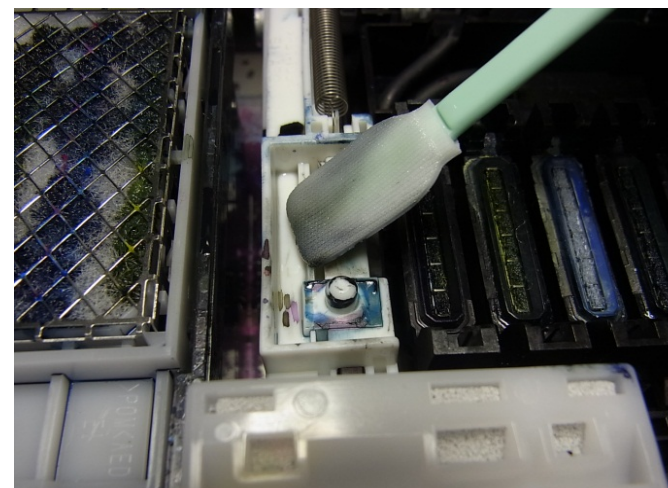
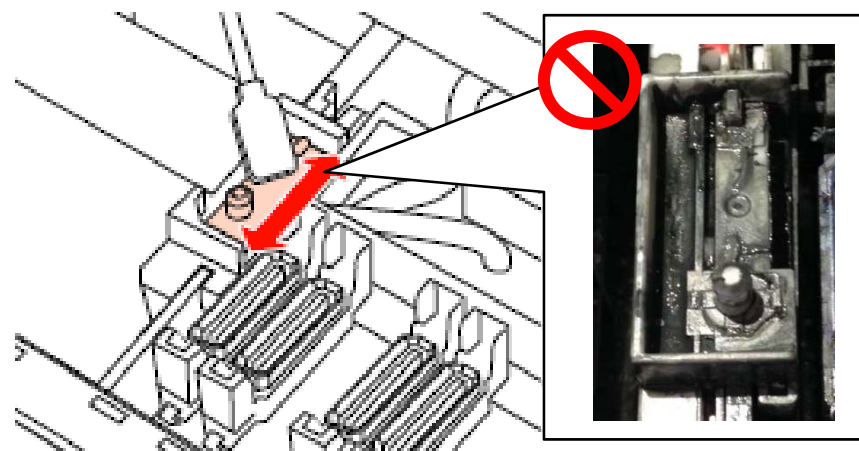


清掃頻度: 1週間/回



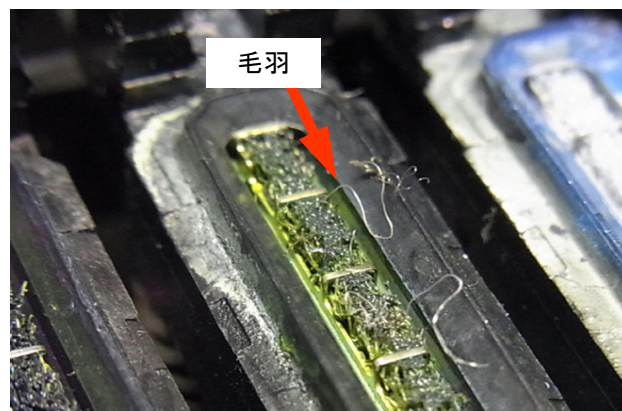
インクがクリーニング棒で取れない場合は、不織布にクリーニング液を染みこませて拭き取ってください。

<ワイパー取付部の清掃>



C: キャップ清掃

キャップは非印字時にノズルを良好な状態に保つための機構です。この時、キャップがノズル面とぴったり密着することが重要です。
キャップのリップ部(以下の写真)にインクが固化した状態や、キャップ内にゴミ毛羽により、キャッピングが正常にされない状態。



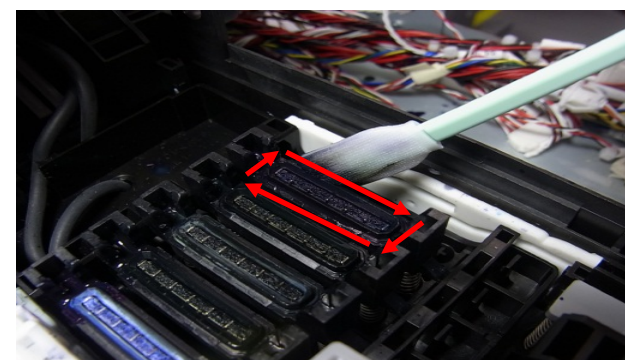
<リップ部の清掃>

清掃頻度: 毎日

クリーニング棒の腹を使ってリップ部を拭き取ります。
キャップ内にゴミ毛羽がある場合は、クリーニング棒で絡み取るか、リップ部を傷つけないようにプラスチックピンセットで取り除いてください。

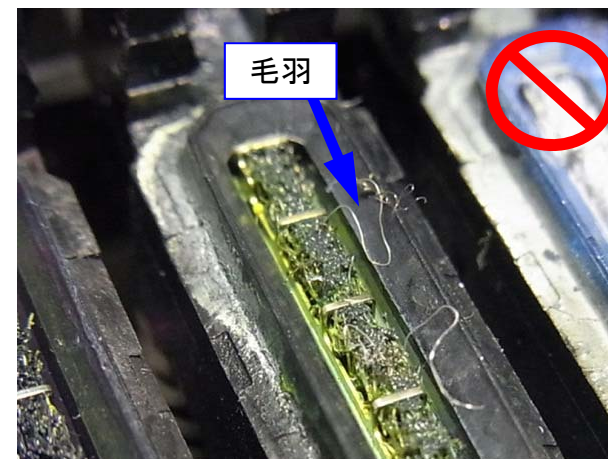
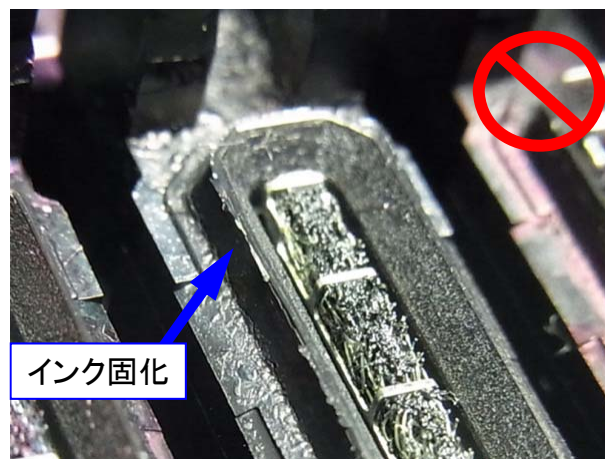
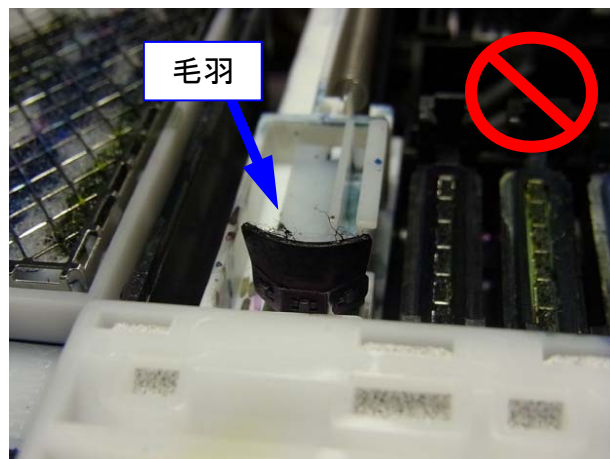


リップ部の外側についたインクを拭き取ります。
ガイド爪(上下2箇所)にインクが固着している場合は、インククリーナーを用いて溶かしながら拭き取ります。

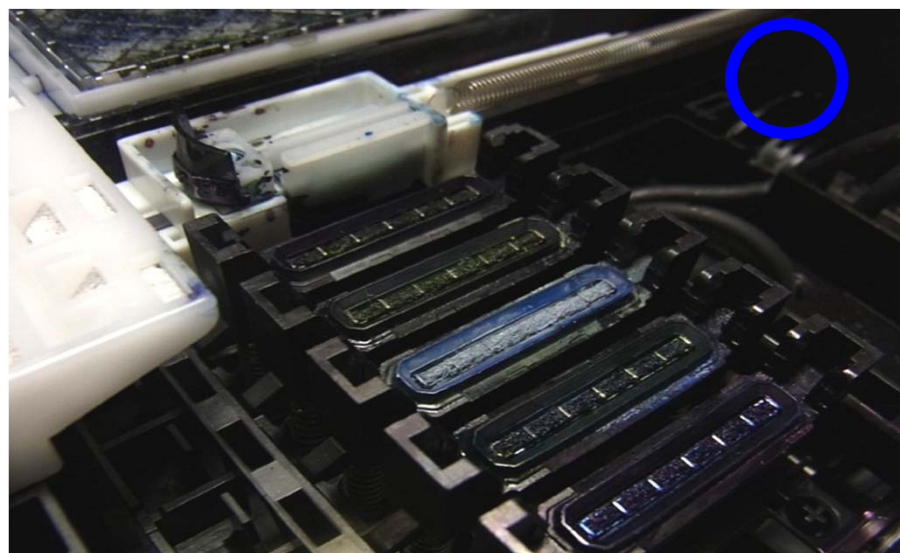


●キャップ、ワイパーの清掃前後の状態

清掃前

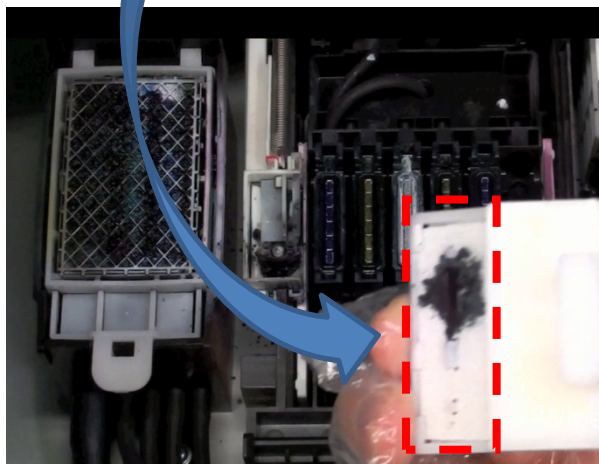
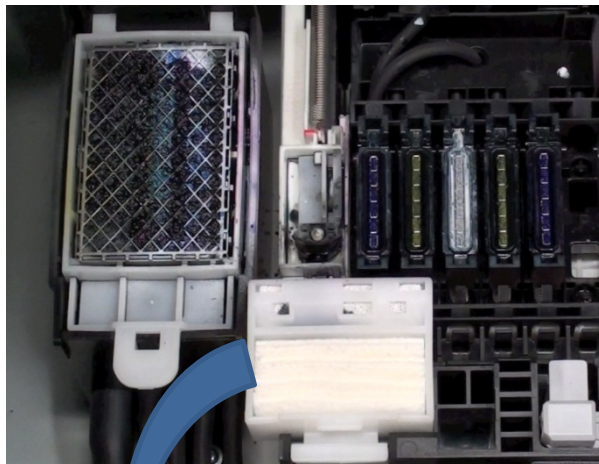


清掃後



D: ワイパークリーナー清掃

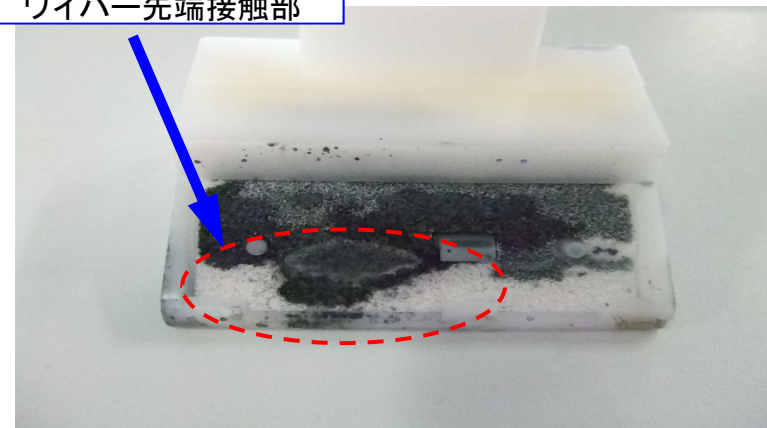
ワイパークリーナーにゴミ毛羽が付着している際は、クリーニング棒またはプラスチックピンセットで取り除いてください。



清掃頻度: 毎日

ワイパーの汚れ方がひどい場合は、下の写真のようにワイパークリーナーのワイパー先端との接触部がインク固化している可能性があります。新品のワイパークリーナーに交換してください。

ワイパー先端接触部

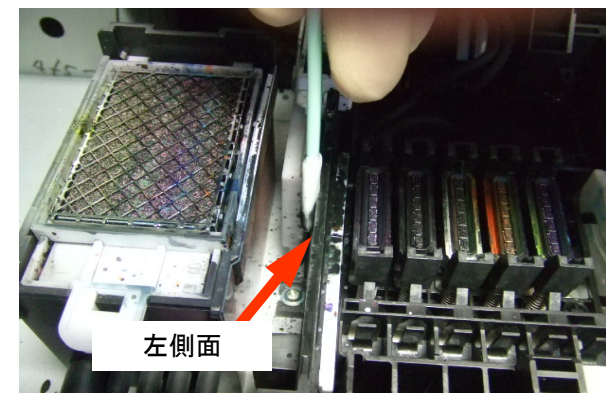
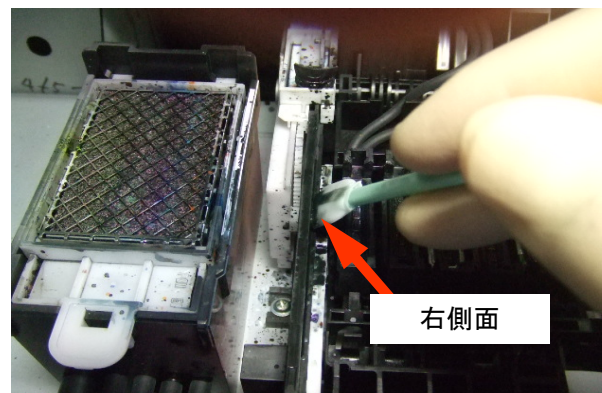
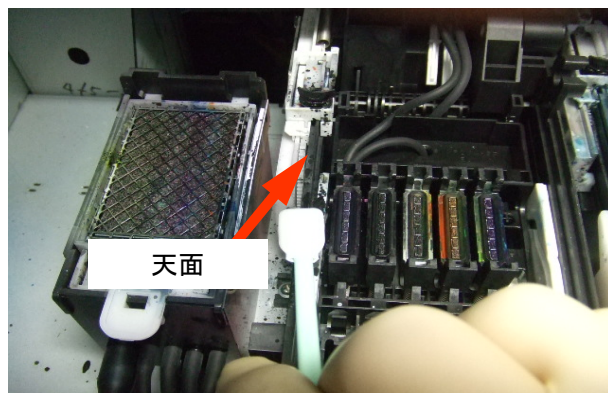


ワイパークリーナーを外さないと汚れ度合いを確認できません。ワイパー先端接触部の汚れを確認するため、ワイパークリーナーは都度外してください。

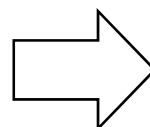
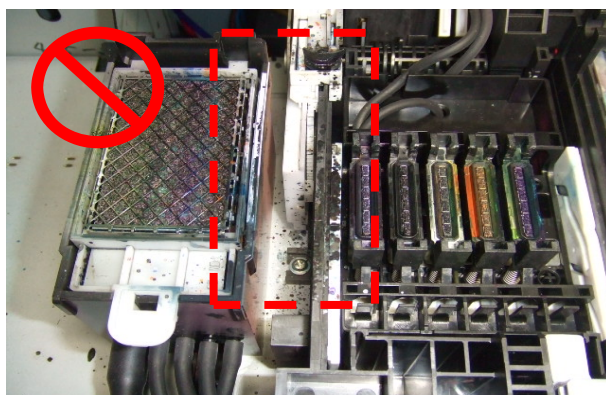
E: ワイパーレールの清掃

清掃頻度: 毎日

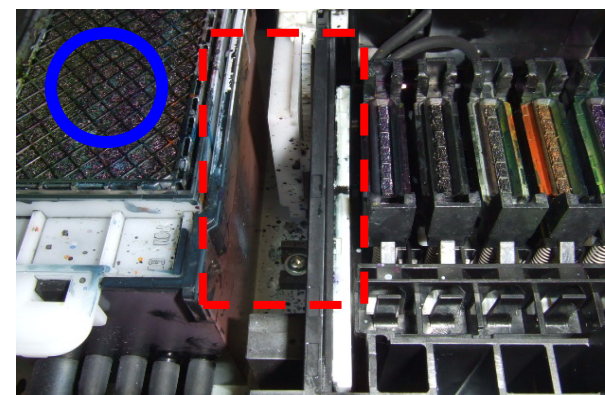
ワイパーのレール部に固着したインクが蓄積すると、ワイパーの動作不良となり、故障の原因となります。
クリーニング棒にインククリーナーを染みこませ、レール部の固着インクを拭き取ります。



清掃前



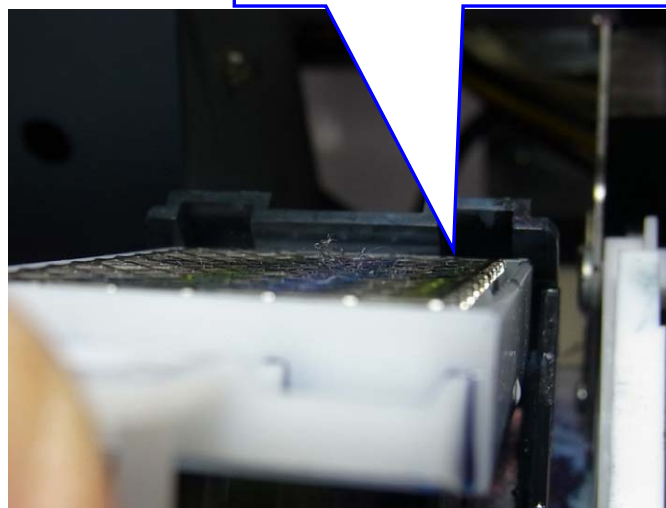
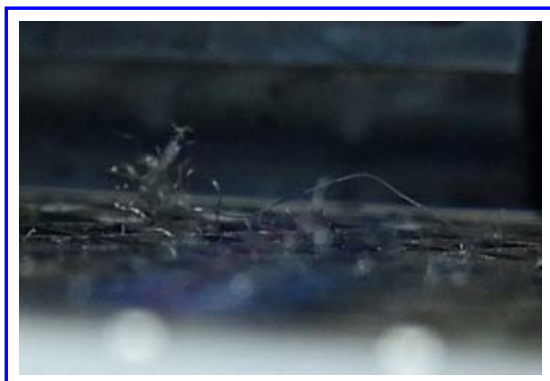
清掃後



3 フラッシング用吸収材

表面にゴミ毛羽が付着していると、ヘッドノズル面に接触し、印字不良の原因となります。

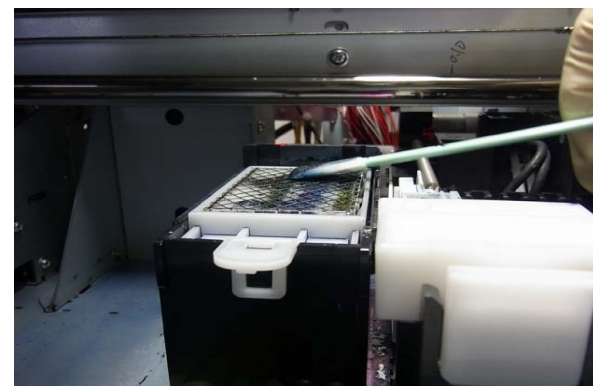
フックを外し、手前を持ち上げて横から表面に飛び出したゴミ毛羽がないか確認してください。



ゴミ毛羽確認時、交換時等、フラッシング用吸収材を取り外す際は、吸収材からインクが落ちる可能性がありますので、取り扱いにご注意ください。

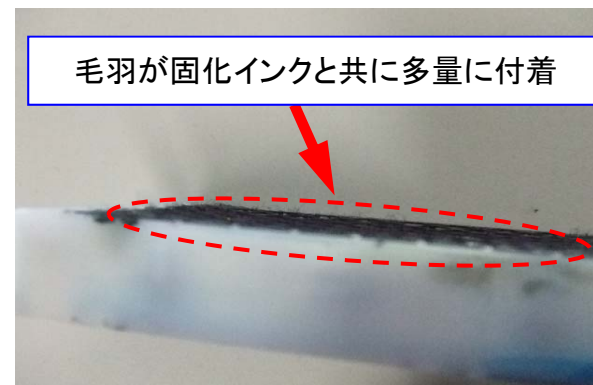
清掃頻度:汚れているとき
交換頻度目安:1ヶ月～2か月

ゴミ毛羽が付着していた場合は、クリーニング棒またはプラスチックピンセットで表面の金具を変形させないように注意し、取り除いてください。



表面のゴミ毛羽が固化インクにより取り除けない場合は、新品に交換してください。

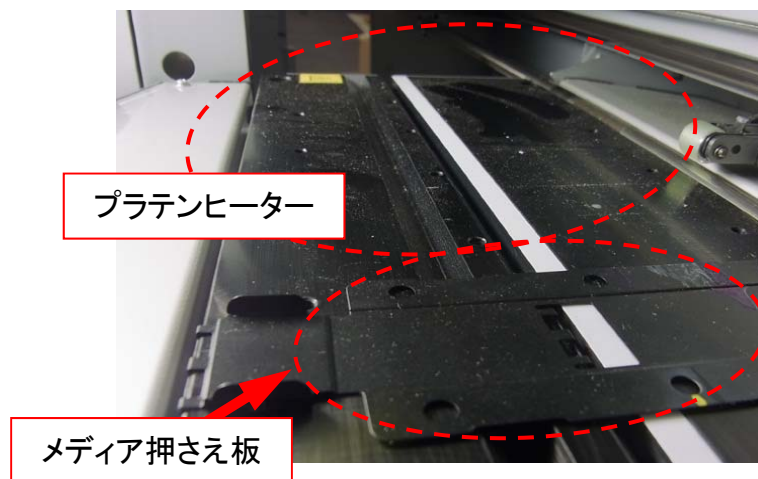
毛羽が固化インクと共に多量に付着



4 プラテンヒーター／メディア押さえ板／機内清掃スペース

紙粉やゴミ毛羽が付着している状態で印刷を続けると、機内の気流によりゴミ毛羽が舞い上がり、メディア上やヘッドノズル面へ付着し、印字不良の原因となります。

ご使用環境に応じて、定期的に清掃してください。柔らかい布を水に浸し、よく絞ってから左右のメディア押さえ板とプラテンを拭きます。



プラテンヒーターのメディア押さえ板取付部付近に、メディアの糊が付着し、メディア浮きにより、ヘッド擦れになる可能性があります。

糊が付着している場合は、薄めた中性洗剤で糊を拭き取ってください。（インククリーナーはメディアを溶かしますので、使用しないでください）

清掃頻度：1週間～1か月/回

プラテンヒーターの溝に入り込んだゴミ毛羽も取り除いてください。



機内清掃スペースは機内の気流の都合上、ゴミ毛羽が拭きたまりやすくなっています。プラテンヒーターと同様に清掃してください。



機内の清掃にブラシを使用する場合には、下記にご注意ください。

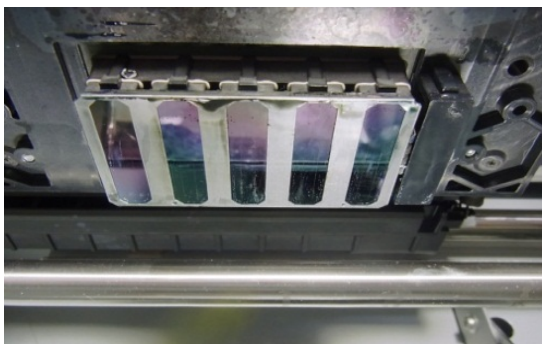
- ・ブラシ自身からブラシ毛羽が出ないもの
- ・静電気を帯電させないもの

■清掃後の状態とチェックポイント

①プリントヘッド周辺

ノズル面及び周辺に

- ・ゴミ毛羽が付着していないか？
- ・固化インクが付着していないか？



②ワイパー、キャップ、ワイパークリーナー

ワイパ先端、キャップリップ部、キャップ内部、ワイパクリーナー表面に

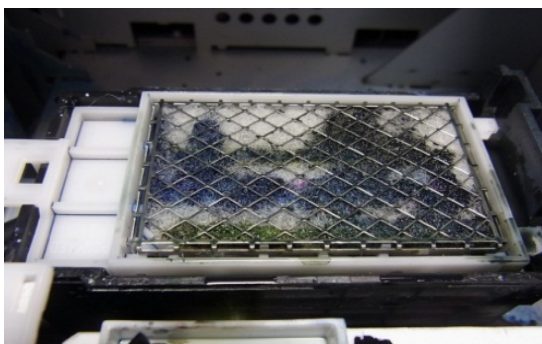
- ・ゴミ毛羽が付着していないか？
- ・固化インクが付着していないか？



③フラッシング用吸収材

吸収材表面に

- ・プラスチックの枠の高さ以上のゴミ毛羽が付着していないか？
- ・プラスチックの枠の高さ以上の固化インクが付着していないか？



④プラテンヒーター

⑤メディア押さえ板

⑥機内清掃スペース

- ・多量のゴミ毛羽が付着していないか？

